

現代『よそ者』考

岐阜県立森林文化アカデミー

原島 幹典

岐阜の暮らしも早7年。「余所者^{よそもの}」としては中堅の域になりつつあるのだろうが、何世代も前からこの地に住む皆様から見れば、私など通りすがりの旅人でしかない。今回は旅人なりの視点から、「よそ者」についての雑感を述べさせていだきたい。

岐阜に限らず、農山村の人たちは、昔から旅人(行商、旅芸人、参詣等)に親切であった。旅先で見聞した話をするだけで、一宿一飯に預かれることもあったらしい。話が尽き、商いが終われば、数日後は次の宿に旅立ってゆくのだが、時に、居着いてしまうものが出て、これを「流れ者」、また定住する者を「余所者^{よそもの}」と呼んだ。「流れ者」は技術を売る職人等が多く、仕事次第で移動するので村人との接点は薄かったが、「よそ者」はそこにずっと住み続けたい人である。移住者や婿が代表例となる。村人は「よそ者」に厳しく接することが多い。これは、身内としてふさわしい人間であるかどうか、例えば、飢饉の時に食料を分かち合う価値のあるものかどうか、村を守るために命をはる覚悟を持つものかどうか、を値踏みしているに違いない。さらには、この地域の習いに合わせる事が出来るかどうかを試しているのだ。「嫁」に求められた「家」の習いと同じことだ。それは、はるか昔のことだと思われるかもしれないが、今でもそういう習いが、形骸化しつつも色濃く残っているように思う。冠婚葬祭、寄り合い、消防団、婦人会、祭り、道の草刈等…。「よそ者」の立場としては、目的が明確であれば多少の理不尽には耐えられるが、目的不明で縛りが多く、やたらと時間をかける伝統行事などは、精神的に耐えられなくなる人もいるだろう。ここで、「あほらしくてやられてねえ!」とタンカを切って退場すると、「あいつはよそ者だからなあ…。」とどちらかが死ぬまで言われるし、建設的に「もっと効率よいやり方に変えましょう!」と提案すると、古老から「昔からこのやり方なので、勝手には変えられない…」等とはぐらかされ、3回くらいは頑張るが、4回目には、相手がハナから変える気がないことを知り、諦めて口を閉じるか、「あほらしくて…!」となり、「あいつはよそ者だからなあ…。」と、どちらかが死ぬまで言われるので、結局かわりはない。誤解の無いように代弁するが、地域の古老たちは、決してよそ者を排除しようとしているのではない。この地域の次代を担う若者を精神的に鍛え、教育しているのだ。ご本人にその自覚はないかもしれないが、少なくとも私はそう思う。それを証拠に、次の寄り合いに行けば、なんの問答もなく内輪に入れるはずである。試用期間中とはいえ、れっきとした構成員として認められ、期待されているのである。「地域に認められたい」、「見返してやりたい」、「自分が役立つことを証明したい。」そういう気持ちが湧いてくることを、巧みに導いているとも思える。そんなことを繰り返すうちに、気が付けば人一倍の

地域への愛着とこだわりを持ち、多くの役割を担う立派な後継者になっていた。めでたし、めでたし。というストーリーで終わりたいところなのだが、しかし、現在の山間地域は、この時間をかけた人材マッチング&村人育成プログラムの成果を待てずに、過疎・高齢化の進行等により、集落機能が崩壊し、消滅する危機に直面している。岐阜県内だけでも115地域が限界集落(65歳以上が人口の半数を超え共同体の維持が限界に達している地域)となっている。地域住民にとっては切実な問題だが、割り切って考えれば、「そんな時代遅れの暮らしはやめて、便利な町に移住すれば良いではないか」という都市側からの意見も、ちらほら聞こえてくる。たしかに山間集落のインフラ整備、公共サービス維持に要する費用は、主に都市および周辺部の経済活動によって生み出されている利益(税金)なのだから、そういう考えもあるだろう。(政策離村させた人の生活維持のための費用は、集落維持以上にかかるかもしれないが。)都会生まれの都会育ちあるいは、田舎生まれであっても都会暮らしの若い世代が増えている今、日本の山間地域を闇雲に維持するための社会的意義は見出しにくくなっているように思う。だとすれば山村は、自ら存続の道を探るしかない。その時、欠かせないのが「よそ者」の力である。地域の善し悪しを知っていて、我慢強いので、内と外側のつなぎ役として適役である。また、新たなよそ者志願者を手助けすることもできる。身内の本音を引き出し、人間関係をうまく保てば、新たな地域リーダーとして活躍することになるだろう。我が森林文化アカデミーの卒業生にも、過疎地域に定住し、住民として積極的に地域活動が続いている「よそ者」がいる。私は「山村づくり講座」の中で、彼らの後に続く「よそ者」の育成、および団塊世代への呼びかけ等により、自立を目指す地域の活動を応援していきたいと考えている。



▲OBが中心となり企画実施した「茶畑オーナー制度」の体験会。
於：揖斐川町春日

●詳しい内容を知りたい方は

TEL (0575) 35-2525 森林文化アカデミー まで